

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書9章7～9節＞

### 1 ヘロデの戸惑いには弟子たちの宣教も影響した — 私たちの務め。

「領主ヘロデは、これらの出来事をすべて聞いて戸惑った」(7)とあります。イエス様自身だけではなく、12弟子の宣教(1-6)も影響を与えたのです。私たちも、どんな時にも主イエスを見つめながら生き、その姿が回りの人に影響(主イエスについて考えるようになる影響)を与えるような生き方をすることが求められているのです。

### 2 神様が起こされた戸惑い。大きな喜びに繋がる戸惑い!

ヘロデは「戸惑った」とあります。ルカはこの語、戸惑い(ディアボレオー)を神様が起こされた出来事に会った人が示す姿を表す語としてよく使っています(使徒2:12 ペンテコステの場面、使徒10:17 ペトロが不思議な夢を見る場面)。戸惑うということは普通は良くないことと考えられているでしょうが、神様が起こされることの中には人間には不思議に思え、むしろ戸惑ってしまう方が自然の場合もあるでしょう。聖書の主題は「御子イエスによってもたらされた神様の破格の恵み」です。これは私たちにとっては大きな戸惑いを起します。しかし、それは分かって来るとやがて大きな喜びに変わって来る戸惑いなのです。

### 3 「このお方は何者か」、その答の内容こそ、神様の破格の恵み!

ヘロデは彼が犯した罪を非難したバプテスマのヨハネの首をはねました。イエスはそのヨハネの生き返りだと人々が言っているのを聞いて戸惑ったのです。「(イエスとは)一体何者だろう」(9)というヘロデの言葉もルカ福音書の中で何度も出て来る重要語です(5:21, 7:49, 8:25)。そして、その答えはイエス様によって弟子たちにも問われ、ペトロが答えたのです、「神からのメシアです」と(9:20)。ヘロデはこの時神様から、自分の罪を問われる中で神様に立ち返る機会を与えられたのではないかと思います。しかしその後、主を殺そうと思う方向に向かったのです(13:31)。私たちはヘロデとペトロのどちらを選ぶべきか、その答えははっきりしています。神様を受け入れる戸惑いは、御言葉を通してこの神様の愛をしっかりと知る中で、喜びへと変えられて行くのです。